

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム花水木

所在地
(県・市町村名) 鹿児島県伊佐郡菱刈町前目791

記入者名
(管理者) 幸喜 妙弥

記入日 平成 20年 3月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームの名称である花水木に擬えた施設独自の理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務におけるミーティングや申し送り、入居者の方々との関わりについて省みる時、特にケアに迷った時には、必ず理念を振り返り、職員が相互に確認し実践するようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、面会に訪れた時や季節の行事への参加の折に伝えている。また、運営推進会議や施設見学の機会を随時設け、地域への理念の浸透を心掛けており、ホーム便りを発行し活用もしている。	○	今後もご家族や近隣地域の皆様へ当事業所の理念や、地域における役割について理解と協力が得られるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近隣へ入居者の方と散歩や買い物に出掛け、近隣の方たちとのコミュニケーションを心掛けている。施設においても、気軽に訪ねていただける様な雰囲気作りにも努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭り等には、入居者の皆様と共に積極的に参加している。また、併設のデイサービスやショートステイの利用者の方々と一緒に施設の年間行事を行うなどしている。	○	近隣地域で行われている行事など地域活動を把握し、地元の方々と交流する機会を増やしていきたい。

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者の介護をしている方や入居者のご家族を対象に、認知症の勉強会を行っており、地域で開催される勉強会などへの資料提供を行っている。	○	今後も勉強会を開き、地域で行われる会議や研修などにも積極的に参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員全体で共有し、自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、サービスの改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で取り上げられた検討課題や懸案事項について、その経過を話し合い、その成果を一つ一つ積み上げていく事で、サービス向上へ取り組んでいる。	○	運営推進会議を通して、今後も地域とのネットワーク作りを進めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所では、運営推進会議以外でも市町村担当者と事業所の実績やケアサービスの取り組みについて話す機会を設けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、地域権利擁護事業や成年後見制度について理解できているが、他の職員の理解にはばらつきがあり不十分な為、支援体制が万全であるとはいえない。	○	研修などの学ぶ機会があれば積極的に参加するようにしている。また、法人内で研修会を開き、全職員が共通して理解できるよう取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングにおいて高齢者虐待防止関連法について話す機会を設け、理解浸透や遵守に努めている。	○	今後も勉強会の開催やミーティングで、これまでのケアを省みる際に、虐待防止について話し合い、理解を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分な時間をかけ契約内容全般について丁寧な説明を行うよう努めている。特に利用料金やリスクについては、詳しく説明し、同意を得るよう心掛けている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>その時々の入居者の不安の訴えや意見についてミーティング等で取り上げ、その意図を察するよう話し合い、運営に反映させるよう努めている。</p>	○	<p>入居者の訴えに耳を傾けることの重要性を職員全体で常に心に留めながら、その訴えを家族や親しい方々などへも伝えるよう心掛け、ケア記録に記載し、今後の運営に反映させていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホームで家族便りを作り、入居者の近況を連絡しており、入居者それぞれに対しても、面会時や電話連絡などで現状の報告を行っている。金銭管理については、入居者各自の出納帳へ記載し、ご家族の確認印をいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族へは、手紙や面会時、行事へ参加された時などに常に意見を伺うようにしている。また、普段から職員がゆとりをもって対応するなど、意見を伝え易い雰囲気作りに留意している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや勉強会、職員との個別面談等、職員の意見を聞く機会を設けている。特に入居者のケアや日常業務に関しては、その意見を可能な限り反映させるよう努力している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態や要望に沿った勤務体制になるよう配慮しており、その状態の変化に応じて必要な話し合いを行い、現状の見直しを行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の移動や離職は無いが、入居者の馴染みの職員が継続して業務に就く事が重要と考えている。止むを得ない場合を除き、移動等は最小限に抑えるよう配慮されている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	事業所外での研修に参加した職員が、他の職員へ伝達できるよう法人内で研修会を計画し、全職員が情報を共有できるよう努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の事業所と協力し、連絡協議会を発足し、定期的に連絡会を開き、意見交換や情報交換を行っている。また、研修会を開催し、積極的に参加している。	○ 今後も他事業所との交流を通じて、情報交換やサービスの質の向上に努めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の会話や個別面談時に職員の悩みやストレスを把握するよう努めている。また、親睦会を開催し気分転換を図り、職員同士の交流ができる機会を設けている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員と連絡帳をやりとりし、現場の理解に努め、職員の考えを把握し、その意見を最大限採りあげるよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があった場合は、そのご家族はもとより必ず本人と向き合い、その状態や思いを受け止め、信頼関係作りに努力している。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	それまでのご家族の苦労などグループホーム利用に至る経緯についてゆっくり話が聞けるよう他の職員と連携し、ご家族と十分な話ができる機会を作るよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の状況や思いを把握し、必要な場 合には地域包括支援センターや他の居宅介護支援事業所 のケアマネージャーとも連携しながら適切なサービスが提供 されるよう対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	利用の開始に際しては、本人やご家族に施設を訪ね、そ の雰囲気にならなでいただき、本人の精神的身体的状態に 合わせて利用を開始している。止むを得ず急遽入居となっ た場合には、ご家族の方や入居者と親しい関係者の方に協 力を依頼し、安心感を持ってサービスの利用が出来るよう配 慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、人生の先輩であるという認識を職員全体で共有 し、普段の生活上、一緒に考え、教わる等お互いが支えあ う関係作りが出来るよう配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	職員は、ご家族とのコミュニケーションを密にとり、日々 の暮らしや出来事など入居者に関して気付いた事などを連 絡し、情報共有に努め、より良い生活支援方法を一緒に考 えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	入居者やそのご家族の思いや状況を見極めながら、外出や 外泊で家族と一緒に過ごす事を入居者に勧めたり、施設の 企画する行事にご家族の方々を招待し、お互いにより良い 関係の構築に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	入居者が昔から利用している美容院を利用したり、行きつ けだつた店へ買い物に行く等、入居者一人ひとりの馴染 みのある場所へ出掛け、馴染みのある人との関係が継続 できるよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	入居者同士の関係について、職員同士や入居者それぞれ と情報交換を密に行い、その関係性がうまくいくよう職員 が調整役となることで、入居者それぞれが支えあえるよ う支援している。	○	入居者と職員と一緒にゆっくり過ごす時間を増やすこと で、より良い関係性の構築を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用を終了された入居者は今のところいらっしゃらないが、他の施設から入居された方に対しては、前施設へ遊びに行ったり、その職員の訪問を受ける等している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者と職員がゆっくりと話ができる機会を作り、入居者一人ひとりの思いや希望等に耳を傾けるようにしている。	○	入居者の希望を把握、または本人本位での検討ができるよう、ミーティング等で意見交換を行いながら、その把握に努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人の本来の生活を継続する為に、これまでの生活歴やライフスタイル等を把握する必要があることを、入居者のご家族や身近な方々にご理解いただき、各入居者の担当職員が中心となり、情報収集を行っている。	○	今後も関係者のプライバシーに配慮しながら、入居者本人やそのご家族身近な方々から情報を得られるようにしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握しながら、その毎日の行動や動作から出来る事や分かる力に注目し、それらを活かして生活できるよう全職員で配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族には日頃関わっていく中で、その思いや意見を聞き、介護計画へ反映させるようにしている。また、各担当職員を中心に職員全体で意見交換を行い、アセスメントからモニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に設定された期間ごとに見直しを行うほか、入居者本人及びそのご家族の要望や状況の変化に応じて、期間終了前であっても、介護計画の検討、見直しを行っている。		

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者に関して職員が気付いた事やその状態の変化などを、個別記録に記載し、職員間での情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を行っている。	○	職員によって記載内容にばらつきがある為、勉強会を開き、分かり易い記録の仕方など全職員が同じ水準で記載できるよう努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医療機関との医療連携体制を活かして、入居者にとって負担となる病院受診や入院の回避、早期退院の支援、必要な医療措置を受けながらの日常生活の継続などができるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や近隣に勤務される警察官、またボランティアの方々には季節の行事や消防訓練などへ参加していただき、双方の意見交換を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業所と連携をとり、意見交換を行っているが、今のところ、実際にサービスの利用は行っていない。	○	市町村独自のサービスの中で入居者の状況や希望を考慮し、生活に活かしていけるサービスを採り入れていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の研修等への資料提供を行い、また、各種研修や意見交換会へ参加する機会を作っている。	○	運営推進会議に地域包括支援センターからの参加を依頼し、関係強化を図っていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人の希望を尊重し、ご家族の了解と協力を得ながら、その希望する医療機関を受診できるよう支援している。		

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関の医師が物忘れ相談医であり、日頃から何かと相談し、指示や助言を受けている。それでも対応が困難な場合には、専門医に相談、受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設には看護師を2名配置し、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行える体制にある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、入居者への支援に関する情報を介護サマリーとして医療機関へ提供し、入院後は頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族と連携をとりながら早期退院できるよう医療機関と話し合いを行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者それぞれの状況にあわせて、重度化した場合や終末期の在り方に付いて、ご家族や主治医と連携をとりながら、話し合うようにしている。	○	入居者本人やご家族の思いを把握し、できるだけ希望が尊重できるよう主治医や関係機関との連携を密に図り、検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者やご家族の方が安心してサービスを受けられるよう、状態の悪化や急変時における事業所の「できること、できないこと」を明確に伝え、十分な話し合いを持つよう努力している。また、急変時などに迅速な対応がとれるよう提携医療機関との連絡体制の構築に努めている。	○	今後、入居者の終末期に関する対応指針を定め、早期から、入居者本人やご家族の方々、かかりつけ医、ホームの職員と話し合いを行い、対応指針の共有化を図りたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え事例なし。	○	今後、住み替えを希望される入居者の方へは、これまでの生活の継続性が損なわれないよう現在の生活環境、支援の内容や留意点等について情報提供を行い、木目細かな連携を心掛けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日頃から、また、勉強会やミーティングの際に、職員の意識向上を図ると共に、日々の入居者との関わり方を振り返り、その誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者やその関係者の方々のプライバシーに配慮したケアを提供できるよう職員の意識向上を図っていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者個々に応じた声掛けを行いながら、それぞれのペースにあわせ、入居者自身が自ら決定し、思いを表出できるようなケアの提供に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も日常生活上、些細なことでも入居者が何を望んでいるのか、意思表示をし易いような対応を心掛け、自らが決定し、納得して暮らせる環境づくりを進めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの基本的な1日の流れは予め計画しているが、入居者のペースを尊重し、職員の都合などで急かしたりすることのないよう注意している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えや整容は、できるだけ入居者本人の意向を尊重するようにしている。また、鏡や櫛、ヘアピン等を本人が使い易いよう目の届く場所に置くようにしており、入居者に馴染みの美容室も積極的に利用している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>予めメニューを決めてあるが、入居者の希望にあわせ、必要に応じてその都度変更できるようにしている。職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう配慮し、調理、盛り付けや片付け等も入居者個々の状態に応じて手伝っていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒の飲める入居者の方には、誕生祝や季節の行事等の席でお酒を出している。毎日のお茶の時間には、入居者の方と一緒に買いに行った好みのおやつや飲み物を出せるようにしている。</p>	

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿(便)意の無い入居者の方にも時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している。車イスを利用されている入居者の方も、リハビリを行い、立ち上がりや移乗訓練を行いながら、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ入居者個々の意向を取り入れながら、体調に配慮して入浴していただいている。入浴を拒む方に対しては、声掛けなどの対応を工夫し、職員同士で連携をとりながら、気持ちよく入浴してもらえるよう努力している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者それぞれの体調や様子、希望等を考慮しながら、その方本来の生活リズムを作るよう配慮している。寝付けない方には、暖かい飲み物を出したり、しばらく話し相手になる等の対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に合わせ、梅干作りやちまき作りなど、入居者の知恵や経験を発揮できる行事を企画している。また、入居者が参加していた地域の行事への参加や馴染みのある場所への外出などを入居者と相談しながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方と相談しながら小額の金銭を持っている入居者の方もいらっしゃるが、金銭は、入居者とご家族の了解を得てホームで管理している。外出して買い物をされた時などは、できる限りご自分で支払いをしていただくよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調等を考慮しながら、入居者一人ひとりの希望に応じて、散歩や買い物などの外出を楽しめるよう支援していく。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の関わりの中で入居者本人の思いを聞き、行きたい場所があれば、ご家族の方と相談しながら、出来る限り実現できるように検討し、出掛けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のご家族や親しい方等からの電話は、いつでもかけていただけるようにしてあり、入居者本人からかける機会も作っている。手紙の書ける入居者の方は、年賀状や暑中見舞いなどを出せるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	仕事帰り等ご家族の方が、都合の良い時間にいつでも気軽に訪ねてもらえるよう面会時間の制限は設けていない。また、面会時には、個室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束の無いケアを実践している。また、日々のミーティングや申し送り等で、職員の自覚しない身体拘束が行われていないか確認を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、外出しそうな際には制止はせず、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど安全面に配慮し、入居者が自由な暮らしが出来るよう配慮している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者のケアに直接関わらない介護記録の記入などの事務作業は、入居者の状況が把握できる場で行うようにしている。夜間は定期的に入居者の様子を確認し、起きている時等には、状況に応じて適切な対応を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々の状況に照らし合わせながら、保管を厳重にすべきもの、管理が必要なもの、使用時には注意が必要なものなどに物品を区分し管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行が不安定な方への転倒予防、誤嚥リスクの高い方への食事介助や服用方法など、入居者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、ヒヤリハットや事故記録の書式を整え、該当事例が発生した際には記録を行い、職員全員の認識の共有を図っている。		

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管轄の消防署の協力を得て、救命救急時の応急処置や蘇生術の研修を実施し、全職員が必要な対応が出来るようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者の方にも参加していただき、避難訓練を実施している。その際には、管轄の消防署、警察、近隣住民の方々にも参加していただいている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活上の様々な活動や外出等により、リスクは高くなるものの、日々の生活で入居者一人ひとりがそれぞれに応じた役割を担い、自由な生活を送ることで、入居者の表情が明るくなり、安心感や充実感を持って生活することにつながるという事を、十分な時間を割いて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックのみに頼ることのないよう、常に入居者の状態を把握し、少しでも食欲や顔色、様子等に変化が見られた場合には、管理者または看護師に連絡し、早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服用する薬の説明書をファイルし、職員がその内容を把握できるようにしている。服薬は、入居者個々が間違いなく出来るよう職員が管理している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、入居者個々の排便状況の把握に努めている。また、適度の運動や繊維質の多い食材を取り入れるなどの工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、入居者一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		

鹿児島県 グループホーム花木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの残食料や水分摂取状況をおおまかに把握し、その情報を職員間で共有し、必要な栄養や水分を摂取できるよう努めている。また、糖尿病の方が2名入居されている為、栄養士の専門的アドバイスを受け、カロリーに留意した食事を提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、感染症(防止)マニュアルを作成し、全職員で学習し予防対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎日漂白し、清潔の保持を心掛けている。新鮮で安全な食材を使用できるよう毎日買い物に行き、生鮮食品のストックはしないようにしている。また、冷蔵庫内の食品の期限の点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	職員による手作りの表札を掲げ、玄関周辺には季節の花を植え、アットホームな雰囲気作りを心がけ、気軽に立ち寄りいただける雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を入居者の方に生けていただき、玄関やダイルームなど、誰の目にもとまる所に飾っている。また、季節感の感じられる品々をホーム内に入居者と職員と一緒に飾りつけ、五感で季節を感じていただけるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるダイルームには、ソファーやテーブル、イスを置き、玄関や廊下にもイスを置いており、入居者がそれぞれに気の向いた場所で過ごせるよう配慮している。		

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者のご家族の協力を得て、それぞれに馴染みのある家具や道具をホームに持ち込んでいる。また、入居者のかつての住まいを訪れ、その使い慣れた品を本人と一緒に選び、ホームへ持ち帰っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	北側と南側の居室やデイルームにそれぞれ温度計を設置し、室温調節を行っている。室内で使用する消臭剤も刺激の少ないものを選び、換気も適宜行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の目線にあわせた生活環境の見直しを行い、手すりの位置や室内の段差、家具の配置などへの安全確保と自立への配慮に留意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を把握して、混乱や失敗が生じた場合には、その都度、ミーティングなどで取り上げ、失敗原因や不安材料などを話し合った上で、入居者の能力を取り戻し、発揮できるよう試みている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に家庭菜園を作り、野菜の手入が出来るようにしている。また、玄関近くにゆっくりと日向ぼっこをしながらコミュニケーションがとれるようテーブル、イスを設置している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 グループホーム花水木

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、入居者が、長年住み慣れた地域で、自分らしく誇りを持ち、主体的で穏かな生活ができるようにとの思いを「花水木の心」として理念に掲げ、日々のケアを行っている。とりわけ、入居者の方々が四季の移ろいを感じながら、毎日の生活を楽しんでいただけるよう、ちまき作りや敬老会、忘年会、各入居者の誕生会など季節毎に行事を開催している。季節の行事には、近隣住民の方々や入居者のご家族を招待し、相互の交流を図り、地域に根差したホーム作りを心掛けている。近隣地域が共同で入居者の生活を支援していけるような関係作りに努めている。また、ホームの同敷地内に、提携医療機関（医院）、デイサービス等があり、理学療法士による機能訓練を行い、身体機能の低下予防に積極的に取り組んでいる。